

【公開Ⅰ】4年2組 特別活動学習指導案

4年2組教室 桐山 裕也

1 題材名 上手な聴き方を知ろう

2 指導の立場

(1) 題材について

本単元は、小学校学習指導要領（平成29年度告示）解説 特別活動編にもとづく題材である。特別活動において育成を目指す資質・能力や、それらを育成するための学習過程の在り方として、「人間関係形成」「社会参画」「自己実現」の3つの視点で整理されている。「人間関係形成」は「人間関係をよりよく形成すること」と同じ視点として整理されている。

生徒指導提要（令和4年12月改訂）においても、常態的・先行的（プロアクティブ）生徒指導において、コミュニケーション力、人間関係形成力などを含む社会的資質・能力の育成の必要性が記されている。

これらを受け、人間関係を形成するためのスキルとして「アサーション・トレーニング」を行う。日常会話の中で「自分の主張も大切に伝えつつ相手の主張も大切に聴く」ことは相互交流においてとても大切である。アサーションを学ぶことで、自分の気持ちや考えを正しく表現するスキルを身に付けるだけでなく、自己理解や他者理解を深め、自他尊重の自己表現を理解し、よりよい人間関係を育むことができると考える。本時は、アサーティブな「聴き方」を中心に考えることで、よりよい人間関係を築いていこうとする態度の育成を目指している。

(2) 児童生徒について

児童は、これまでにアサーティブな「伝え方」についての学習をしてい

る。アサーションタイプを「ジャイアン（攻撃的）」「のび太くん（非主張的）」「しずかちゃん（アサーティブ）」の3タイプに分けられることを理解し、しずかちゃんの伝え方で言われると受け入れやすいという思いを抱き、その伝え方のポイントをまとめたり、練習したりしてきた。

しかし、日常生活の中では、相手の気になる行動に対してつつい声を荒らげたり、改善させたいという思いはもっていても声をかけられなかったりという場面が多くある。「しずかちゃんタイプが望ましい」とは分かっているけれども「ジャイアンタイプ」や「のび太くんタイプ」になってしまうのが現状である。そこで本時では、日常諸問題を扱うことで、自分の身の回りで起こりうる場面であることに気付かせ、自分事として捉えていけるようにしたい。また自分のタイプを振り返りつつ、どうするとアサーティブな関わりができるのか考えさせることで、自己の変容を捉えさせ、日常場面へと広げていけるようにしたい。

(3) 指導について

本時は、「自他尊重の自己表現」にもとづいて、ロールプレイによる聴き方の実践練習を行う。実践練習では、話し手・聴き手・観察者の3つの役割を分担して行う。やりとりをした時の感想はもちろん、第三者としての観察者を位置付けることで、客観的な評価を行い、自身の聴き方を振り返る場とする。この活動によって、コミュニケーションスキルを知識として理解するだけでなく、体験的に学習することを通して、普段の自分の関係構築の在り方について考え直すきっかけとしたい。また、表情や態度といった非言語的要素にも目を向けてこれからの人との関わりへの意欲をもたせていきたい。

授業の終末には振り返りを行う。これまでの自分を振り返りながら、「相手を大切にしたい聴き方」に対する考えの変容を捉えられるようにしたい。

3 単元指導計画

学年	第4学年	題材名	上手な聴き方を知ろう（全3時間）
題材で育む資質・能力			
<ul style="list-style-type: none"> ・アサーティブな聴き方を理解し、そのポイントを見付けることができる。〔知識及び技能〕（1）ア ・アサーティブな聴き方をするためにどうすればよいのか考えたり、仲間との交流から合意形成を図ったりしながら、対話することができる。〔思考力、判断力、表現力等〕（2）イ ・これまでの仲間とのやりとりを見つめ直し、よりよい人間関係を形成するためにはどうするとよいのか振り返り、日常場面で生かしていこうとすることができる。〔学びに向かう力、人間性等〕（3）ウ ・アサーティブな表現を使うことよさや、自他がよりよく生活するためにどうするとよいのか見だし、実践しようとする。〔学びに向かう力、人間性等〕 			
時	主な学習活動とねらい		評価規準
①	よりよい聴き方を見付けよう。 ・3つのパターンのやりとりから、どの聴き方が良いのか考える。 ・選んだ聴き方にはどんな特徴があるのか話し合う。		望ましい聴き方は相手が話しやすくなる聴き方であることを理解し、その特徴について理解している。〔知識・技能〕
② 本時	上手な聴き方のポイントを考えて、使えるようになるう。 ・目指したい聴き方になるためには、どんなポイントに気を付けるとよいか話し合う。 ・自分なりにポイントを踏まえた聴き方を実践する。		聴き方のポイントを理解し、自分なりに活用できそうなポイントを選びながら、相手のことを考えた聴き方をしている。〔思考・判断・表現〕
③	相手にとって話しやすい聴き方をしよう。 ・前回の聴き方のポイントから更に広げていけることはないか考える。 ・様々な場面を想定して、実践する。		聴き方のポイントを活用するだけでなく、更によりよい聴き方を目指すために、抑揚や表情などの新たな視点を見付け出し、日常場面でもそれらを生かして対話している。〔主体的に学習に取り組む態度〕
題材で自己実現に向かうための資質・能力を発揮している姿			
問題解決力	「アサーティブな聴き方」をするためにはどんなことに気を付けるとよいか、3つの例示や仲間との交流の中からポイントを見付け出し、そのポイントを意識して聴き方を実践している姿。		
関係構築力	相手が話しやすくなるように聴こうとしたり、仲間の聴き方に対してどうだったか感じたことを伝えたりする姿。		
貢献する人間性	「アサーティブな聴き方」をした仲間の良さを伝えたり、自分と仲間が不快な気持ちにならないように仲間の話を聴いたりする姿。自分の聴き方はどうだったか、仲間の聴き方と比べたり交流したりしながら、「アサーティブな聴き方」を使おうとする姿。		
自己実現に向かうための資質・能力を発揮している姿の見届けの視点と手立て			
問題解決力	目指すべき姿をイメージしながら学習目標を設定し、単位時間ごとに自身の姿を見つめ、良さに気付いたり新たな視点を見いだしたりしたかどうか、学習記録表から見届ける。		
関係構築力	仲間と会話をする中で、単位時間ごとに獲得すべきスキルやルールを意識したり、他者を意識した聴き方を考えたりしながら実践しているか、交流の様子から見届ける。		
貢献する人間性	「自分ができるようになったこと・意識すべきことは何か」を考えたかワークシートや振り返りでの発言から見届ける。またそのスキルを獲得することで何がよいのか、日常の生活や自己の在り方を改善しようとしているかワークシートから見届ける。		

4 領域にかかわる本時のねらい

3つのパターンの会話から、相手にとってよりよい聴き方を考えることを通して、受容的に話を聴いてもらえる良さに気づき、自分も他者との対話の中で相手のことを考えた聴き方を実践していく方法を考えることができる。〔思考力、判断力、表現力等〕

5 本時の展開（2/3）

児童生徒の学習活動	教師の手立てと見届け
<p>1 アイスブレイク「そうだねゲーム」 A:「あれは〇〇ですね。」→B:「そうだね。」</p> <p>2 本時のめあてを確認する。 ・伝え方と同じで、聴き方にも3つのパターン（アグレッシブ、ノンアサーティブ、アサーション）があったな。 ・アイスブレイクでのシェアリングから、感じ方を交流する。 ・「しずかちゃん（アサーション）」のパターンで聴いてもらえるとうれしいな。 相手にとって大切にされていると感じる聴き方をしよう。</p> <p>3 相手の話を聴くときに大切なことは何か確認する。 ・相手の方を向いて、最後まで話を聴くと大切にされている気がする。 ・あいづちを入れた方がよいのではないか。 ・もっと相手の話に反応をしてあげるとよいのではないか。 ・相手の言ったことを繰り返す。 ・質問する。</p> <p>4 聴き方ポイントを確認する。 1、2こ：全体で確かめる。：相手の方を見る。 うなずきながら聴く。等 3～6こ：ペアの子と一緒に考える。：相づちをうちながら。 同じ言葉を繰り返す。等</p> <p>5 聴き方ポイントを意識して、実際に3人ペアで体験する。 (例) 今日の給食はごはんとお肉と枝豆のサラダがでるんだよね。何っていうお肉かは忘れたけれど、なんかおいしそうじゃない？ ・(話し手) 聴き手が質問とかをしてくれると、話してよかったという気持ちになる。 ・(観察者) 今のやりとりは、前のめりになって聴こうとする姿から、相手の話を聴き逃さないようにしようとしていることが伝わってきてよかった。</p> <p>6 振り返りを行う。 ・今日の学習では、聴き方のポイントが分かった。聴き方1つでも相手に与える印象が変わってしまうから、話し手にとって安心できる聴き方をこれから目指していきたい。</p>	<p>(●教科の資質・能力 ○自己実現に向かう資質・能力) ○●児童が学習への見通しや意欲がもてるよう、学習記録表を用いて、前時までの学習や本時したいことを確かめる。 ○「自分が話し手の時にどんな気持ちになるのか」と問うことで、問題意識を高める。 ○受容的な聴き方のよさに気付くために、3つの行動を実演することで、問題解決に最適な行動を児童自身がイメージしやすいようにする。</p> <p>研究にかかわって 【見届けの視点】 学習課題をもち、相手にとってどんな聴き方をするとよいのか聴き方のポイントを考えている姿。 (関係構築力) ○「話が分からないときにはどうするといいのかな。」と問うことで、常に同じ行動場面ばかりではないことに気付く。 ○●「聴く」行動の思いを問い返すことで、他者を大切にしようとする思いに目が向けられるようにする。 ○●仲間との学びがより深められるよう、客観的に見ることが出来る観察者を設定し、よりよい聴き方について評価する。観察者には、観察のポイントをワークシートに示すなど、視点を明確にする。</p> <p>【評価規準】 聴き方のポイントを理解し、自分なりに活用できそうなポイントを選びながら、相手のことを考えた聴き方をしている。〔思考・判断・表現〕</p>